

令和 5 年度
大分市社会教育委員会
【報告書】

《研究テーマ》

青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方



令和 6 年 3 月

— も く じ —

| | | |
|-----|---|----|
| I | 研究テーマ | 1 |
| II | 研究経過 | 3 |
| III | 公民館に対する意識やニーズの把握 | 4 |
| | 1 公民館に関するアンケート調査の実施 | |
| | 2 公民館に関するアンケート調査からわかる公民館に対する意識やニーズの傾向 | |
| IV | 既存のやり方にとらわれない新しい発想からの具体的取組 | 5 |
| | ～公民館に関するアンケート調査結果から考えられること～ | |
| | 1 社会教育委員の視点から | |
| | ～令和5年度 大分県社会教育委員連絡協議会 ブロック別社会教育研修会(大分ブロック)～ | |
| | 2 公民館職員の視点から | |
| | ～令和5年度 社会教育施設連携会議 担当者研修～ | |
| V | 研究のまとめ..... | 11 |
| | 青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方 | |
| | — 提 言 — | |
| | 1 小学生以下の時から公民館利用を促進し公民館に親しみをもってもらう | |
| | 2 中高生へアプローチし青年層利用にスムーズに移行させる | |
| | 3 青年層にとって公民館が「居場所」となるようにする | |
| | 4 青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館への具体的な取組 | |
| VI | おわりに..... | 17 |
| VII | 用語解説・参考文献 | 17 |
| | 【資料】 公民館に関するアンケート調査用紙 | 18 |
| | 公民館に関するアンケート調査結果 | 20 |
| | 大分市地区公民館の事例 | 29 |
| | 【別表】 令和5年度 大分市社会教育委員..... | 34 |

I 研究テーマ

令和4年に内閣府が行った「生涯学習に関する世論調査(注1)」によると、学習したい場所や形態として「公民館や生涯学習センターなど公的な機関の講座や教室」と回答した人の割合は34.4%で、「インターネット」「書籍や雑誌など」に次いで3番目に位置し、対面での学習ニーズは比較的高いと言える。ところが、年代別で見ると青年層(注2)は15.1%で他世代に比べて一番低く、青年層の公的機関での学習ニーズは低いと言える。

このような現状に対し、第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理(令和2年9月)では、「生涯学習・社会教育をめぐる現状・課題」の一つとして、「子ども・若者の地域・社会への主体的な参画と多世代交流の推進」が挙げられている。また、令和4年度大分市社会教育委員会【報告書】では、「人生100年時代」を見据え、特に公民館利用や教室・講座受講が少ない青年層への学習機会を充実させ、さまざまな世代や立場の人が交流できる場を提供することが必要であると述べられている。さらに、大分市議会政策研究会では、若者(注3)の成長及び社会参画を促進し、もって若者のもつ活力が循環するまちの実現を図ることを目的に「大分市若者応援条例」を策定(令和5年4月1日施行)したところである。つまり、青年層の公的な機関での学習ニーズは低いかもしいないが、青年層に対する学習機会の提供や青年層をまきこんだ交流・地域づくりの重要性は、むしろ高くなっていると考えられる。

大分市が管轄する公的機関である大分市地区公民館は、利用者や教室・講座受講者の固定化や高齢化が課題として挙げられており、今後は青年層を対象とする教室・講座を増やしていこうとしているところだが、具体的な方法については明確にできていない状況にある。そこで、大分市の公民館において青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができるよう、具体的な取組について明らかにする必要があるのではないかと考え、今年度の研究テーマを次のように設定する。

《令和5年度研究テーマ》

青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方



【生涯学習に関する世論調査(令和4年7月調査)内閣府】

問 6. あなたは、これから学習するとした場合、どのような場所や形態で学習したいとおもいますか。(〇はいくつでも)

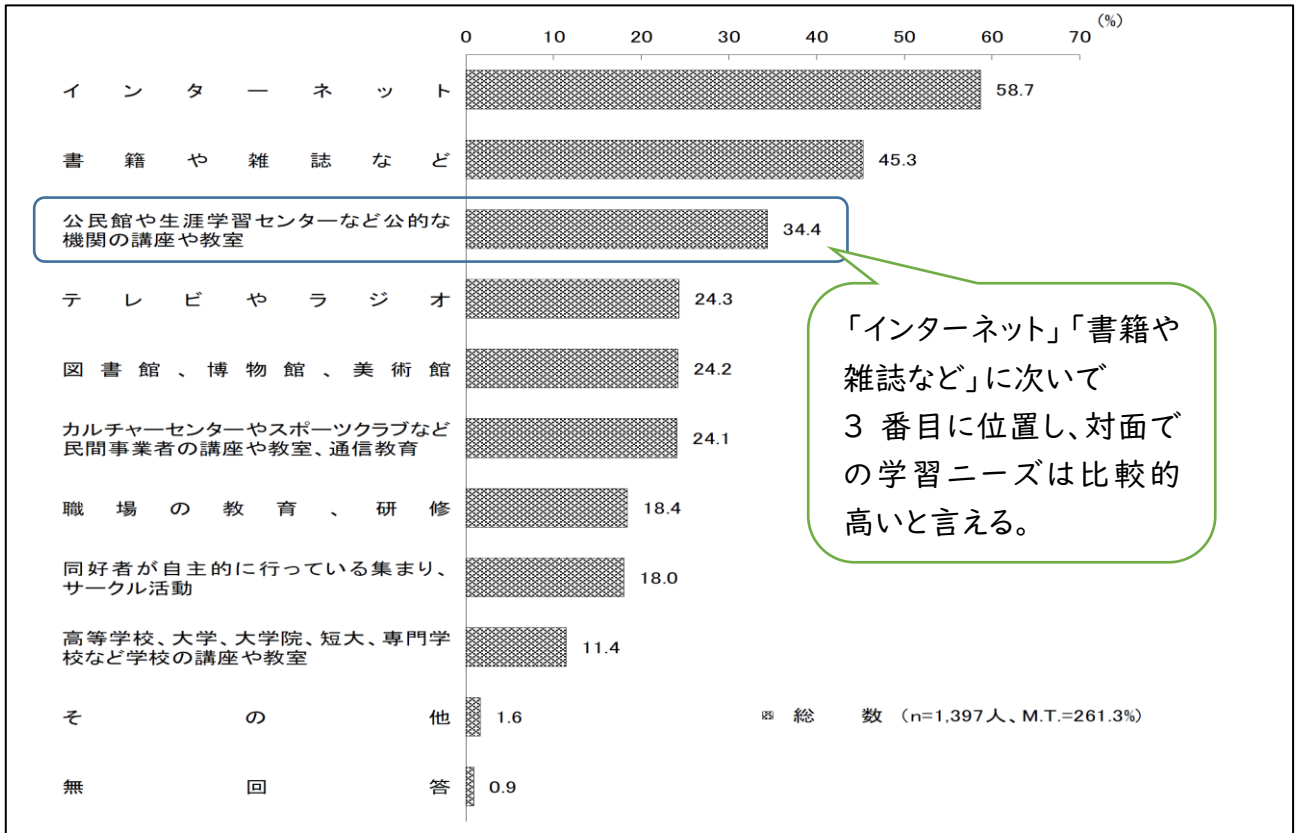


表 6 今後学習したい場所や形態

(年代別)

(これから学習するとした場合、学習したいことを挙げた者に、複数回答)

| | 該当者数 | インターネット (%) | 書籍や雑誌など (%) | 公民館や生涯学習センターなど (%) | テレビやラジオ (%) | 図書館、博物館、美術館 (%) | カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間事業者の講座や通信教育 (%) | 職場の教育、研修 (%) | 同好者が自主的に行っている集まり、サークル活動 (%) | 高等学校、大学、大学院、短大、専門学校など学校の講座や教室 (%) | その他 (%) | 無回答 (%) | 計 (M.T.) (%) |
|--------|-------|-------------|-------------|--------------------|-------------|-----------------|--------------------------------------|--------------|-----------------------------|-----------------------------------|---------|---------|--------------|
| 総数 | 1,397 | 58.7 | 45.3 | 34.4 | 24.3 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 261.3 |
| [都市規模] | | | | | | | | | | | | | |
| 大都市 | 399 | 61.2 | 50.1 | 31.1 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 281.2 |
| 東京都 | 99 | 65.7 | 48.5 | 27.3 | 18.0 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 281.8 |
| 政令指定都市 | 300 | 59.7 | 50.7 | 32.3 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 281.0 |
| 中都市 | 584 | 60.4 | 45.0 | 34.6 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 259.6 |
| 小都市 | 296 | 54.4 | 41.6 | 36.1 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 241.2 |
| 町村 | 118 | 52.5 | 39.8 | 39.8 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 252.5 |
| [性] | | | | | | | | | | | | | |
| 男性 | 666 | 63.1 | 47.0 | 30.0 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 257.5 |
| 女性 | 731 | 54.7 | 43.8 | 38.3 | 27.1 | 24.2 | 24.1 | 18.4 | 18.0 | 11.4 | 1.6 | 0.9 | 264.7 |
| [年齢] | | | | | | | | | | | | | |
| 18～29歳 | 152 | 80.3 | 57.2 | 15.1 | 18.4 | 36.8 | 21.1 | 28.9 | 11.8 | 23.0 | 0.7 | - | 293.4 |
| 30～39歳 | 156 | 80.8 | 55.1 | 17.9 | 19.2 | 25.0 | 19.2 | 37.8 | 12.8 | 13.5 | 1.3 | 0.6 | 283.3 |
| 40～49歳 | 258 | 71.7 | 45.7 | 26.7 | 23.6 | 23.6 | 27.1 | 29.8 | 9.3 | 11.6 | 1.9 | 0.8 | 272.1 |
| 50～59歳 | 266 | 72.2 | 44.0 | 34.6 | 17.3 | 20.3 | 32.3 | 18.4 | 13.9 | 12.4 | 3.0 | 0.4 | 268.8 |
| 60～69歳 | 234 | 55.6 | 46.2 | 44.9 | 26.9 | 28.6 | 27.4 | 9.0 | 21.8 | 7.7 | 1.3 | - | 269.2 |
| 70歳以上 | 331 | 19.6 | 35.3 | 49.2 | 33.5 | 18.4 | 16.6 | 2.1 | 30.8 | 6.6 | 1.2 | 2.4 | 216.0 |

Ⅱ 研究経過

大分市社会教育委員会は、例年6回会議を開催しているが、今年度は2つの研修会（表太枠）においても同じテーマで議論したので、研究経過に含めるものとする。

| 日時 | 内容 |
|---------------------------|--|
| ①5月18日(木) 14:00~16:00 | 研究テーマ設定 |
| ②8月3日(木) 14:00~16:00 | 青年層対象「公民館に関するアンケート調査」の実施に向けて |
| ☆~9月30日 | 青年層対象「公民館に関するアンケート調査」の実施 |
| ◆10月19日(木) 13:30~16:00 | 大分県社会教育委員連絡協議会 ブロック別社会教育研修会 (大分ブロック) ○実践発表「大分市社会教育委員会の取組」 「公民館に関するアンケート調査」結果について ○研修(グループ討議) 「若者が『つどい・まなび・つながる』ことができる 公民館のあり方について」 |
| ◆11月15日(水) 14:00~15:45 | 社会教育施設連携会議 担当者研修 ○説明「公民館に関するアンケート調査」結果について ○協議「若者が『つどい・まなび・つながる』ことができる 公民館のあり方について」 |
| ③11月16日(木) 14:00~16:00 | 「公民館に関するアンケート調査」結果について |
| ④12月21日(木) 14:00~16:00 | 青年層が「つどい」ことができる公民館のあり方について 青年層が「まなび」ことができる公民館のあり方について 青年層が「つながる」ことができる公民館のあり方について |
| ⑤1月18日(木) 14:00~16:00 | 研究のまとめ1 |
| ⑥2月15日(木) 14:00~16:00 | 研究のまとめ2 |

Ⅲ 公民館に対する意識やニーズの把握

まず、中高生を含む若い世代の公民館に関する意識やニーズの傾向を把握するため、アンケート調査を実施した。

1 公民館に関するアンケート調査の実施

(1) 目的

比較的公民館利用が少ない中・高生や青年層(18歳~29歳)の公民館に対する意識等を把握し、社会教育委員会議による公民館のあり方の協議の参考にするため、アンケート調査を実施する。

(2) 調査内容 公民館の利用状況や希望内容等

(3) 調査対象 今年度13歳になる中学校1年生から29歳になる人

(4) 調査方法 電子申請、アンケート用紙 →【資料】公民館に関するアンケート調査用紙(本報告書P19)

(5) 調査期間 令和5年8月中旬~9月30日

(6) 回答数 265

(7) 調査結果 →【資料】公民館に関するアンケート調査結果(本報告書P21)

2 公民館に関するアンケート調査からわかる公民館に対する意識やニーズの傾向

- ・ 中高生は学習スペースのニーズが高い。
- ・ 学習スペースは、静かに学習できるスペースと友だちと一緒に話し合いながら学習できるスペースの両方のニーズがある。
- ・ 学習スペースは、夏季休業中などにスペースを広くしてほしいとの要望がある。
- ・ 20代後半は、子育てに関する講座のニーズが高い。
- ・ 調査対象の世代全般では、「スポーツなど身体を動かすもの」のニーズが高い。
- ・ 利用したことのない理由で一番多いのは「利用する必要がない」である。
- ・ 情報収集ツールは、既存のやり方の他、SNSで一番ニーズが高かったのはInstagramだった。Instagramは、他のツールに比べて、フォローしていなくても偶然情報を見るチャンスが多いからではないかと考えられる。(現在公民館の情報はInstagramで発信していない)
- ・ 参加しやすい時間帯は、平日の夜間か土日の日中が高い。
- ・ 公民館の施設・設備等、古い・暗いイメージがある。

IV 既存のやり方にとらわれない新しい発想からの具体的取組 ～公民館に関するアンケート調査結果から考えられること～

公民館の課題として、利用者の固定化や高齢化が挙げられる中、障がいの有無や国籍等に関係なくすべての世代に対して学ぶ機会を提供することや交流することが重要である(令和4年大分市社会教育委員会【報告書】)。青年層の公民館利用をさらに増やし、青年層を含むすべての世代間で交流を深められるようにするには、既存のやり方にとらわれない新しい発想からの取組も必要になってくる。

この項では、既存のやり方にとらわれない新しい発想からの具体的取組について、2つの研修で出された意見をまとめるが、決して既存のやり方を否定するものではないことを付け加えておく。

1 社会教育委員の視点から

～令和5年度 大分県社会教育委員連絡協議会ブロック別社会教育研修会(大分ブロック)～

毎年、大分県社会教育委員連絡協議会を主催とする4市(臼杵市、津久見市、由布市、大分市)持ち回りの研修会が開催されており、令和5年度は大分市が開催市となった。まず「大分市社会教育委員会の取組」の発表の中で「公民館に関するアンケート調査結果」について説明し、その後「若者が『つどい・まなび・つながる』公民館のあり方について」を討議の柱の1つとして設定し、グループ内で社会教育委員の視点から意見を出してもらった。

(1) 研修の趣旨

大分地区(ブロック)の社会教育委員が一堂に会して、地域内の情報交換や当面する諸課題について研究協議することで、地域内の社会教育委員の連携の強化を図り、社会教育の推進に寄与することを目的とする。

(2) 日時 令和5年10月19日(木)13時30分～16時00分

(3) 場所 大分市議会棟4階 全員協議会室

(4) 主催 大分県社会教育委員連絡協議会 大分市社会教育委員会

(5) 参加者 大分地区(ブロック)各市社会教育委員 社会教育関係職員等 約35人

(6) 日程

| 時間 | 日程及び研修内容 |
|-------------|---|
| 13:00~13:30 | 受付 |
| 13:30~13:40 | ○開会行事 |
| 13:40~14:30 | ○実践発表 「大分市社会教育委員会の取組」※公民館に関するアンケート調査結果について説明 |
| 14:30~14:40 | 休憩 |
| 14:40~15:50 | ○研修(グループ討議) ①障がいのある人の生涯学習について ②若者が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方について |
| 15:50~16:00 | ○閉会行事 |

(7) グループ討議で出された意見のまとめ(社会教育委員の視点からの意見)

施設・設備等

- ・フリーWi-Fiは必須
- ・ハード面(カフェ・学習スペース)
- ・ボルダリング(体を動かす施設)
- ・公園がわりに自由に使える施設(卓球台、バドミントン、バレー、バスケなど)
- ・他市の例にあるように、館内にスターバックスやコンビニエンスストアなどを併設(公民館のイメージUPにつながる)

教室・講座

【多世代交流】

- ・高校生が高齢者にスマホの扱い方を教える事業も楽しい(若者が講師に)
- ・地域の高齢者によるキッチンカーでの販売(若者に購入してもらうことで交流を深める)
- ・地域の伝統を学ぶ機会やものづくりを体験する機会の提供(アンケート等でニーズを調べて)
- ・地域人材の活用
- ・サポーター制の導入(若者がやりたいことを支援)

【若者が興味のもてる内容】

- ・プログラミングなどのPCの学習
- ・サブカルチャー(アニメなど)
- ・eスポーツ、料理、映画、キャンプ、伝統芸能、イベント ※毎年同じ内容で実施しない
- ・バレンタインのチョコづくり
- ・仕事、就職セミナー
- ・一人暮らしのための講座(料理、掃除、洗濯、18歳成人に伴うトラブル失敗談など)
- ・ペットのしつけ

【民間との連携】

- ・中高生の興味ある（興味はあるが、学校ではできないもの）、バンド・ダンスなど

【多様な交流】

- ・公民館同士の交流 ・海外とのオンライン交流

イベント

- ・公民館で文化収穫祭を開催し、収入を得られるようにする
- ・イベント会場内に子どもたち（若者）の作品（習字や絵）を展示することで子どもたちの喜びにつながる
- ・公民館の行事に、子どもたち（若者）を参加させて、神楽・餅まきなどさせる
- ・不用品を回収し、フリーマーケットを開催する
- ・映画上映会、お化け屋敷、婚活イベント
- ・言語聴覚士、作業療法、理学療法など資格者の卵と触れ合うイベント
- ・お祭りを開催すると地域のまとまりができる（盛り上がる）
- ・お祭り、イベント（eスポーツ）で若者を集め、つながりをつくっていく

学習サポート

- ・学習教室をする（講師は退職教員など）
- ・ボランティアによる学習塾
- ・夏休みに大学生が先生になって学習教室を開く

その他

【情報発信】

- ・市報、HP のように調べないといけないは× Instagram など、勝手に入る情報○
- ・YouTube や Instagram 等で講座内容がわかるように情報発信する

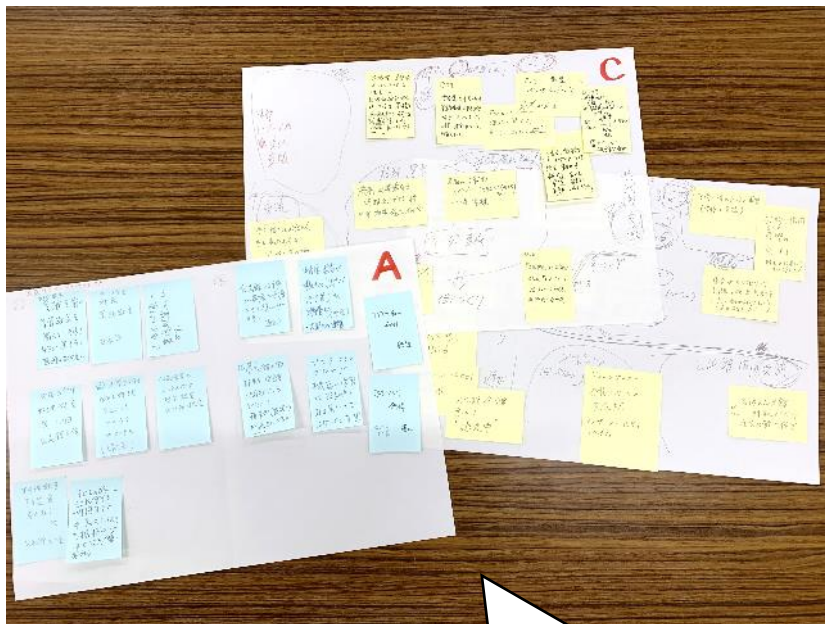
【次世代育成】

- ・ジュニアリーダーの育成と活動
- ・青年団活動の復活
- ・次世代を育てる→組織作り→継承
- ・公民館がおぜんだてするのではなく、自分たちで考え動ける活動を仕組む
- ・自分たちで考え動けるリーダーの育成



【その他】

- ・困りのある家族を支援する講座(子育て世代への支援)
- ・小さい時に公民館を利用すると、中高生になっても、公民館に来る抵抗が少ない
- ・来館ポイント(来るだけでもらえるポイント、参加するともっとたくさんもらえる)
- ・手続きの簡素化
- ・「待ち合わせは公民館で!」と若者が言えるように
- ・キャッチフレーズを決める
- ・公民館の名前を変える
- ・公民館が自由な雰囲気のある社交場のような存在にする
- ・高齢者も若者を受け入れられるようなイメージチェンジを図る
- ・若い人は集まることを嫌がるのでスマホ会議の実施
- ・大人世代がまちづくり活動をしている姿を若者に見せる
- ・まちづくり会議に中高生など若い世代に参加してもらう



A~Eの5つのグループに分かれ、
KJ法(注4)によりグループ討議を行った

2 公民館職員の視点から

～令和5年度 社会教育施設連携会議 担当者研修～

大分市社会教育委員会事務局である大分市社会教育課が毎年実施している、地区公民館職員を対象とする研修会において、「若者が『つどい・まなび・つながる』ことができる公民館のあり方について」グループ討議を行い、公民館職員の視点から意見を出してもらった。

(1) 研修目的

地区公民館を含めた社会教育施設における生涯学習・社会教育事業や当面する課題等について、社会教育課と市民協働推進課及び社会教育施設の職員が合同で協議や研修を行う。

(2) 日 時 令和5年11月15日(水)14時00分～15時45分

(3) 場 所 大分市役所 第2庁舎6階 教育委員室

(4) 参加者 各地区公民館の社会教育施設連携会議担当者 13人(各公民館から1人ずつ)

(5) 日 程

| 時 間 | 日 程 及 び 研 修 内 容 |
|-------------|---|
| 14:00～14:05 | ○開会 |
| 14:05～14:25 | ○研修1 説明 「公民館に関するアンケート調査結果について」 |
| 14:25～15:00 | ○研修2 (グループ討議) 「若者が『つどい・まなび・つながる』ことができる公民館のあり方について」 |
| 15:10～15:45 | ○研修3 ボッチャ体験 |

(6) グループ討議で出された意見のまとめ(公民館職員の視点からの意見)

場所

- ・地域人材を活用し、青年層の好む活動を
- ・地域の組織とつながる
- ・講師の活動しているところを会場にする

時間帯

青年層が参加しやすい夜間に実施する

参画

- ・青年層に講師やボランティアとして参加してもらう
- ・大学教授に頼んで実行委員になってもらう(大学とのつながり)
- ・高校生や中学生ボランティアの活用とボランティア証明書の発行

問題

- ・既存の教室・講座で若者対象の講座を計画しても集めることが困難
- ・若者の生活スタイルとして、土日や平日の夜に教室・講座を設定しても、自分の生活が忙しく参加が困難な人がある
- ・職員の勤務(夜間・土日や夕方)が合わない

打開策

- ・高校や大学のサークルの活動場所や、文化祭等に出向いて情報を得る
- ・発表の場を提供する
- ・若者の発表を見たいと思う若者を集める

キーワード: 青年層が企画側へ 公民館と青年層が Win-Win の関係
公民館職員がさまざまな場に出向いて若者とつながる



グループ討議をする中で、青年層に関する取組を既実践している公民館の事例が紹介された。 ➡【資料】大分市地区公民館の事例(本報告書 P29)

V 研究のまとめ

青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館のあり方

—— 提 言 ——

大分市社会教育委員会では、公民館における青年層に対する学習機会の提供や青年層をまきこんだ交流・地域づくりの具体的な取組を明らかにする必要があると考え、本研究テーマを設定し研究協議を行った。

これまでの協議をまとめ、次のとおり提言する。

なお、本報告書5ページにも述べたが、青年層を対象とした取組を行う場合、既存のやりかたとらわれない新しい発想からの取組も必要となるため、提言の中には現段階の施設・設備や予算、職員数等において取組が難しいものも含まれるが、今後の取組の視点として受け止めてもらえれば幸いである。

1 小学生以下の時から公民館利用を促進し公民館に親しみをもってもらおう

現在、大分市地区公民館において、家庭教育支援に関する内容や子ども対象の教室・講座が多く開催されており、小学生以下の子どもの公民館利用は多い。特に中学生になるまでの時期に、「公民館は楽しいところ」、「気軽に利用できるところ」、「やさしい地域の人や公民館職員の人がいるところ」などのポジティブな印象でたくさん利用してもらい、公民館に親しみをもってもらうことが必要である。親しみをもってもらえれば、その後年齢を重ねても「でかける場」の候補に「公民館」を入れてもらえるのではないかと考えられる。

2 中高生へアプローチし青年層利用にスムーズに移行させる

現在、小学生以下の子どもの公民館利用は多いが、中高生の利用は一気に少なくなる傾向にある。その大きな理由として、部活や学業等で忙しくなることが考えられる。

しかし、中高生の利用が少ない中で青年層の利用を増やそうとしても、その分ハードルも高くなるので、中高生をターゲットにした取組を行い、青年層利用にスムーズに移行させることが必要である。

(1) ニーズ(生活)にあった内容で

・学習スペースを充実させる

長期休業中の時に広く、利用時間を長くする

週末や平日の午後、長期休業中などは部屋を無料開放にする

一人で静かに学習できる場と、友だちと一緒に相談しながら(飲食含め)学習できる場の両方を準備する

・職業体験の機会や就職・一人暮らしのための準備講座を開催する

- ・ボランティア活動の機会を提供する
(ボランティア証明書を発行し就職や進学に活用してもらう)
 - ➔【事例】南大分公民館(本報告書 P32)
 - ➔【事例】大分東部公民館(本報告書 P32)
- ・大学生や就職したての少し年上の先輩との交流会を設定する(失敗談を含む話をしてもらう)
- ・学校ではできない体験や内容で教室・講座を開催する

(2) 公民館を家庭・学校以外の第 3 の居場所に

- ・部活に所属していない等の中高生の居場所となるようにする
- ・待ち合わせやたまり場として利用してもらう(見守る大人が必要)

(3) 親子で情報を共有できる方法での発信

- ・中高生自身で「行ってみよう」「参加してみよう」と思えなくても、保護者と情報を共有できれば保護者が「これいい内容だから、行ってみたらいいよ」と声かけができ、公民館に行くきっかけづくりができる

3 青年層にとって公民館が「居場所」となるようにする

青年層にとって、公民館が「居場所」となるためには、青年層の主体性が尊重され、自己有用感や充実感を得られる「場」にすることが必要である。具体的には以下の 5 つの「場」が考えられる。

(1) 自分が成長できる場

生活様式やニーズにあった学習ができ、成長を感じることができる。

(2) 気軽に立ち寄れる場

楽しく明るい雰囲気を感じられ、待ち合わせなどでも気軽に立ち寄ることができる。

(3) つながりが広がる場

イベント等を通して青年層同士や地域住民との交流が深まり、つながりを広げることができる。

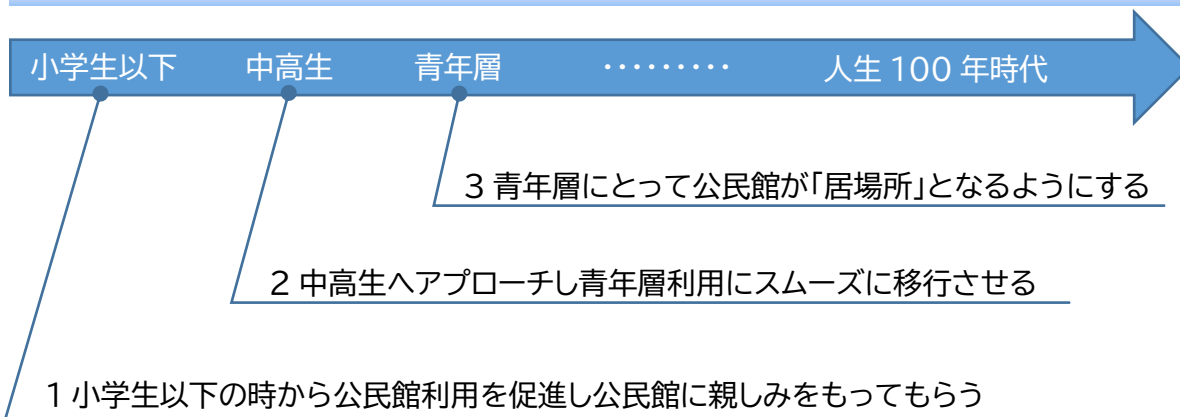
(4) 相談できる場

公民館職員が顔見知りになり、困ったときや何かやりたいことがあるときに、相談することができる。相談できる場があるということは、安心感につながる。

(5) 自分の力を発揮できる場

教室・講座やイベント等の企画・運営に携わることで、自分のアイデアやこれまで培った技術などの自分の力を発揮することができる。そのためには、青年層の主体性を尊重し失敗も受け止め、アドバイスをくれる「寄り添う大人」の存在が必要になる場合もある。

公民館は、どのような施設で何ができるのか など 公民館の楽しさ・可能性を知ってもらう



4 青年層が「つどい・まなび・つながる」ことができる公民館への具体的な取組

「つどい・まなび・つながる」は必ずしもこの順で生じるわけではなく、互いに関連しているものと考えられる。例えば、人々が「つどい」ことでそこに「まなび」がうまれることもあれば、「まなび」ために「つどい」こともある。また、「つながる」ことを目的に「つどい」こともあれば、一緒に「まなび」ことで「つながり」がうまれることもある。しかしこの項では、今後の公民館での取り組みやすさを考えて、「つどい」「まなび」「つながる」に分けて、それぞれの具体的な取組を述べることにする。

(1) つどい ～「利用する必要がない」からの脱却～

「公民館に関するアンケート調査結果」のうち、公民館を利用したことがない理由として突出して多かったのは「⑧利用する必要がない」だった（本報告書 P23）。公民館の楽しさや可能性等を感じてもらうためには、「利用する必要がない」から脱却し、青年層が「つどい」ための取組が必要になる。

「つどい」ための仕掛けづくり～気軽に利用できるように～

- ・スポーツなど体を動かすための施設（集会室など）を無料開放できる時期を設ける
卓球台、バドミントンのラケット、ミニバレーボール などの備品も無料貸出
少人数でも利用可能
- ・青年層で構成されるサークルなどの発表の場を提供する（定期開催できればもっとよい）
➡【事例】坂ノ市公民館（本報告書 P29）

「つどい」環境づくり～用事がなくてもゆったり過ごせるように～

- ・フリーWi-Fi 環境にする
- ・カフェ（のような明るい空間）軽食の自動販売機設置 など
古い・堅いイメージを払拭するような空間をつくる

**待ち合わせは公民館で！
公民館がたまり場に！**

その他

- ・ポイント制を導入する（来館するとポイントがたまる、講座等に参加するとさらにポイント付与）
- ・手続きを簡素化させる（電子手続きなど）※令和 5 年度時点で電子申請は可能
- ・小学生以下の時からの公民館利用を促進する（公民館へ行くことの抵抗感をなくすために）
- ・公民館の情報を入手しやすい工夫をする
（Instagram など検索やフォローをしなくても容易に情報を入手しやすいツールを活用）
- ・「公民館」から明るいイメージになるような名前にかえる
- ・公民館を知ってもらうための出前講座や公民館ツアーを開催する

(2)まなぶ ～青年層の豊かな人生のために～

教育基本法第 3 条には、生涯学習の理念として、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。」と定められている。青年層が豊かな人生を送ることができるよう、「まなぶ」ための取組が必要になる。

公民館主催の教室・講座・イベントで「まなぶ」場の提供～学校ではできない体験やまなび～

- ・青年層が興味・関心の高い内容で開催する
プログラミング、PC、アニメなどのサブカルチャー、eスポーツ、ドローン体験、料理、映画、キャンプ、ペットのしつけ、バレンタインチョコづくり、バンド、ダンス、パン作り、フリーマーケットなど
- ・ライフスタイルにあった内容で開催する
10代～20代前半（一人暮らしセミナー、仕事・就職セミナー、有資格者の卵と触れ合うイベント）
20代後半（子育てに関するもの、子育ての困り解消のための親子支援講座 など）
➡【事例】坂ノ市公民館（本報告書 P30）
- ・豊かな体験ができる場を提供する
地域の伝統芸能やものづくりなどの体験、ボランティアとしての参画体験
- ・青年層が参加しやすい場へ出向いて実施する
- ・青年層が参加しやすい回数や時間帯で実施する
➡【事例】植田公民館（本報告書 P30）



青年層の主体的な「まなび」の支援体制の構築

- ・青年層の「やりたい」を支援するサポーター制を導入する

その他

- ・失敗を含め、「まなび」を最後まで見とどけ支援する「寄り添う」大人が必要な場合もある。

(3) つながる ～持続可能な地域づくりに向けて～

公民館は、住民同士が「つどう」「まなぶ」「つながる」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献する役割を担っている(注 5)。持続可能な地域づくりに向けて、青年層を含む地域住民が「つながる」ための取組が必要になる。

公民館職員と青年層が「つながる」～公民館側が積極的に出向くことでのつながりづくり～

- ・青年層で構成されるサークルなどをつながる
- ・大学や高校に積極的に働きかけることをつながる
- ・青年層で構成される企業や民間団体に協力してもらうことをつながる

青年層同士が「つながる」場の提供～同年代の仲間づくり～

- ・友だちと一緒に学習できるスペースを提供する
- ・青年層による学習支援活動を設定する(中高生に対して大学生等の青年層が教えるなど)
- ・青年層対象の教室・講座、イベントを企画する(婚活イベントなど)
- ・青年層が企画から運営まで主体的に参画できるイベントなどを企画する

地域のさまざまな立場や世代の人と青年層が「つながる」場の提供 ～青年層をまきこんだ地域づくり～

- ・地域のさまざまな立場や世代の人の「まなぶ」を支援する立場で参加・参画してもらう
 - ➔【事例】佐賀関公民館(本報告書 P31)
 - ➔【事例】南大分公民館(本報告書 P31)
 - ➔【事例】大分東部公民館(本報告書 P32)
- ・イベント等への参加・参画を通じた世代間の交流(フリーマーケットなど)
 - ➔【事例】南大分公民館(本報告書 P32)
 - ➔【事例】大在公民館(本報告書 P33)
 - ➔【事例】植田公民館(本報告書 P33)
- ・ICT 機器を活用した、遠方の地域や海外との交流

その他

- ・参加・参画することで、青年層も地域も公民館もメリットがあるようにする
(青年層:活動の場や収益が得られる、地域:つながりが増える、公民館:利用者が増える など)



VI おわりに

情報化の急速な進展により、特に ICT 機器に精通している年代の青年層は、ICT 機器を活用して一人でも「まなぶ」ことができ、SNS の発達により遠方の人とも「つながる」ことができるようになった。一方で、ICT 機器を活用した一人での「まなび」や SNS 上での「つながり」だけでは、似た価値観や考えの人とつながりやすく、偏った情報を収集してしまうリスクがあると言われている（注 6）。

このような中、本委員会としては、青年層により多くの世代や立場の人、多様な考えの人とのリアルな「まなび」や「つながり」を体験してもらい、さらに豊かな人生を送ってもらいたいと考える。また、多様な人々とのリアルな「まなび」や「つながり」は、青年層の居住地での居場所づくりや地域づくりにもつながり、その拠点としての役割が公民館にあると考える。

そこで今年度は、公民館の役割である「つどう」「まなぶ」「つながる」の 3 つのキーワードから、青年層を対象とした具体的な取組について研究を重ねてきたが、その中で、現在、大分市地区公民館において青年層を巻き込んださまざまな取組が始まっていることも明らかとなった。今後は、本提言や資料に掲載している大分市地区公民館の事例を参考にしつつ、地域の特性にあった取り組み方を模索し、できることから少しずつ行ってもらいたい。また時には、公民館の一部の事業や運営自体を青年層に思いきって任せてみるなど、本提言にはない新しい発想からの取組が行われることも期待したい。そして、次世代を担う青年層が生き活きと活躍でき、多世代がつながり切磋琢磨しながら高めあえる地域づくりに尽力していただきたい。

VII 用語解説・参考文献

- 注 1：生涯学習に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とすることを目的に、全国の 18 歳以上の日本国籍を有する人を対象に行った調査
- 注 2：本報告書では概ね 18 歳から 29 歳とするが、調査や条例等によっては設定年齢が異なる
- 注 3：大分市若者応援条例では概ね 16 歳から 29 歳としている
- 注 4：思いついたキーワードや情報をカードなどに挙げていき、関連性のあるものをグルーピングすることで、解決方法やアイデアを発想する手法
- 注 5：『公民館パンフレット』（平成 22 年 9 月 文部科学省）P2～P3
パンフレットでは「つながる」ではなく、「おすぶ」となっている
- 注 6：SNS において自分と似た興味関心を持つユーザーをフォローすることで、同じような価値観や考え方の意見ばかりに触れるようになる結果、自分の考えは「正しい」「多数派だ」と信じてしまうことを「エコーチェンバー現象」という

【資料】

公民館に関するアンケート調査用紙

公民館に関するアンケート調査結果

大分市地区公民館の事例

大分市の公民館について、アンケートに答えてください。

大分市の生涯学習・社会教育について話し合う会議「大分市社会教育委員会」では、今年度、若い世代が「つどい・まなび・つながる」ことのできる公民館のあり方について話し合っています。そこで、若い皆さんの公民館に対するご意見をいただきたいと思い、アンケート調査を行うことになりました。

今年度 13 歳になる中学校 1 年生から 29 歳になる皆さん。ご協力くださいますよう、お願い申し上げます。

※下記の二次元コードにアクセスして回答していただいてもよいです。

◆該当するものに○をしてください。

はじめに、あなた自身のことについてお聞かせください。

問 1 あなたの年齢についてお聞かせください。

[①10代 ②20～24歳 ③25～29歳]

問 2 あなたの性別についてお聞かせください。

[①男性 ②女性 ③その他]

問 3 あなたの職業についてお聞かせください。

[①自営業・事業主 ②会社員 ③教員・公務員 ④会社・団体役員
⑤パート・アルバイト ⑥中学生 ⑦高校生 ⑧大学(短大・高専)生・大学院生
⑨専修・専門学校生 ⑩専業主夫・専業主婦 ⑪無職 ⑫その他()]

問 4 小学生以下のお子さんはいますか。

[①いる ②いない]

問 5 大分市に住んで何年になりますか。

[①5年未満 ②5年以上]

公民館についてお聞かせください。

問 6 あなたは、中学生になって以降、どのような機会に公民館を利用しましたか。(※複数回答可)

[①公民館の催し(教室・講座、講演会、その他イベント) ②公民館図書室
③所属しているサークルや習い事などの活動(貸し部屋利用) ④フリースペースの利用
⑤その他() ⑥利用したことがない]

〈問 6 で「⑥利用したことがない」を選択した方のみお答えください。〉

問 6-1 あなたが、公民館を利用したことがない理由は何ですか。(※複数回答可)

[①忙しくて時間がとれない ②どのような催しがあるかわからない
③利用したい催しがない ④時間や曜日が合わない ⑤一緒に活動する仲間がいない
⑥利用方法がわからない ⑦身近なところに公民館がない ⑧利用する必要がない
⑨公民館以外の施設(コンパルホールやホルトホール大分など)を利用している ⑩その他()]



アンケートの受付は
終了しています



アンケート
二次元コード



大分市生涯学習キャラクター
ソーリンくん

問 7 参加してみたいと思う公民館の催し(教室・講座、講演会、その他イベント)について、選んでください。
(※複数回答可)

- [①日常生活に必要な技術・知識に関するもの ②スポーツなど体を動かすもの
③自然に関するもの ④文化に関するもの ⑤子育てに関するもの
⑥社会問題に関するもの ⑦ボランティアなど地域づくりにつながるもの
⑧自分のよさが発揮できものやスキルアップできるもの ⑨同世代の仲間と交流できるもの
⑩子どもや高齢者など様々な年代の人と交流できるもの
⑪外国籍の人など様々な立場の人と交流できるもの ⑫その他()]

問 8 公民館に係る情報を知りたいとき、どのような方法(情報発信ツール)があると情報収集し
やすいですか。該当するもの 3 つまで選んでください。

- [①公民館だより ②チラシ・ポスター ③ホームページ ④市報 ⑤X(ツイッター)
⑥Facebook(フェイスブック) ⑦Instagram(インスタグラム) ⑧YouTube ⑨LINE(ライン)
⑩その他()]

問 9 公民館の催し(教室・講座、講演会、その他イベント)に参加しやすい時間帯はいつですか。全ての曜日
ごとに、もっともあてはまると思う番号に○をしてください。

| | 曜日 | (9 午前 時 ~ 12 時) | (13 午後 時 ~ 17 時) | (17 夜間 時 ~ 21 時) | あてはまらない |
|---|----------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|---------|
| A | 月曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| B | 火曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| C | 水曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| D | 木曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| E | 金曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| F | 土曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| G | 日曜日 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| H | 土日を除く祝祭日 | 1 | 2 | 3 | 4 |

問 10 今後、オンライン配信を利用した公民館の催し(教室・講座、講演会、その他イベント)を実施した場合、
参加してみたいと思いますか。

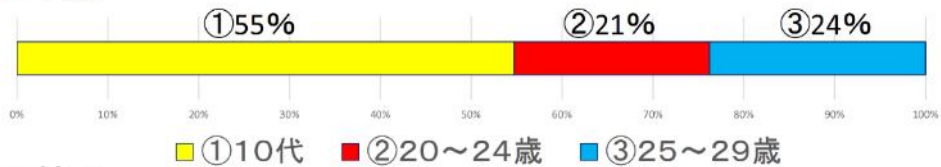
- [①参加してみたい ②操作方法が分かれば参加してみたい
③機器があれば参加してみたい ④参加したくない]

問 11 その他 公民館についてご意見・ご要望等がありましたら、ご記入ください。(自由記述)

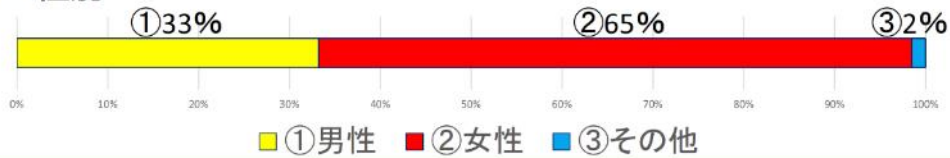
公民館に関するアンケート調査結果

年齢については、①10代が55%、②20～24歳が21%、③25～29歳は24%だった。
性別については、①男性が33%、②女性が65%、③その他が2%だった。

問1:年齢



問2:性別



職業については、⑥中学生が29%、⑦高校生が23%と中高生の割合が高かった。

問3:職業

| 職種 | 割合 | 職種 | 割合 |
|------------|-----|------------------|-----|
| ①自営業・事業主 | 1% | ⑦高校生 | 23% |
| ②会社員 | 18% | ⑧大学(短大・高専)生・大学院生 | 10% |
| ③教員・公務員 | 8% | ⑨専修・専門学校生 | 0% |
| ④会社・団体役員 | 0% | ⑩専業主夫・専業主婦 | 8% |
| ⑤パート・アルバイト | 2% | ⑪無職 | 0% |
| ⑥中学生 | 29% | ⑫その他 | 1% |

医療職・育休

小学生以下の子どもの有無や大分市居住年については、生活様式により、公民館に対する意見が異なるであろうことを想定した質問項目である。

問4:小学生以下の子どもの有無

いる 16%

いない 84%

問5:大分市居住年

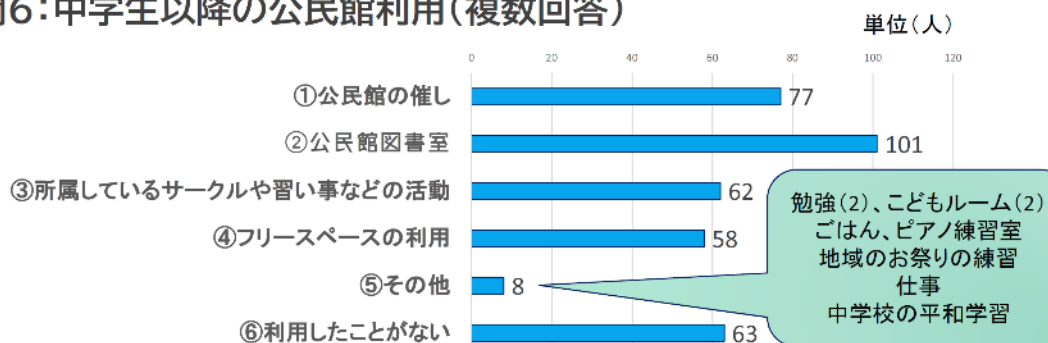
5年未満 12%

5年以上 88%

中学生になって以降の公民館利用については、②公民館図書室が一番多く、次いで①公民館の催し、そして3番目に多かったのが、⑥利用したことがないだった。

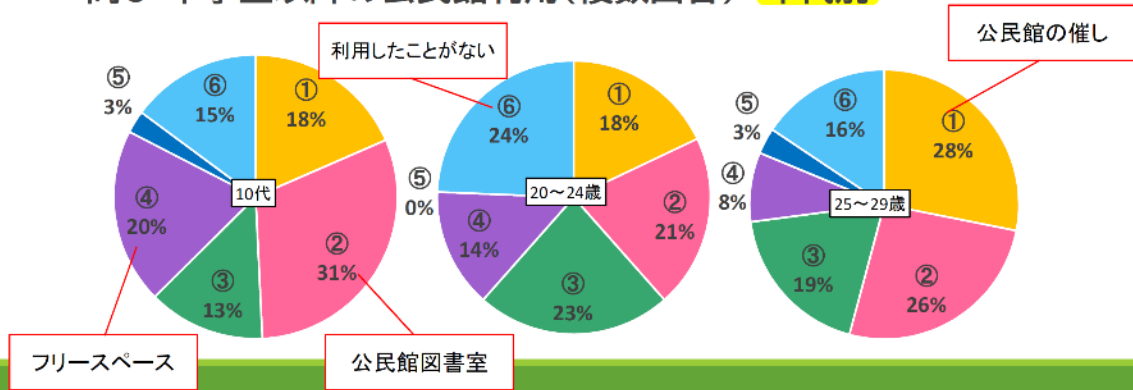
大分市地区公民館は、公民館図書室とフリースペースを学習スペースとして開放しているため、回答率の高かった中高生が試験勉強のために公民館図書室やフリースペースを利用していると考えられる。

問6:中学生以降の公民館利用(複数回答)



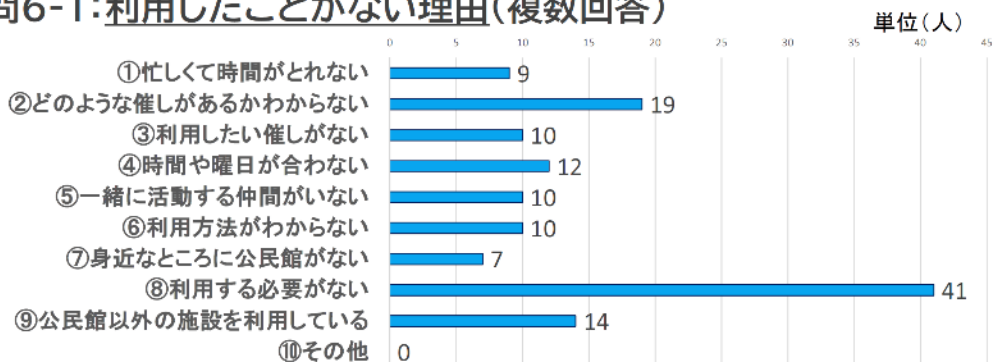
年代別で割合を出してみたところ、10代は②公民館図書室とフリースペース、20～24歳は⑥利用したことがない、25～29歳は①公民館の催しが他の世代に比べて高かった。

問6:中学生以降の公民館利用(複数回答) 年代別



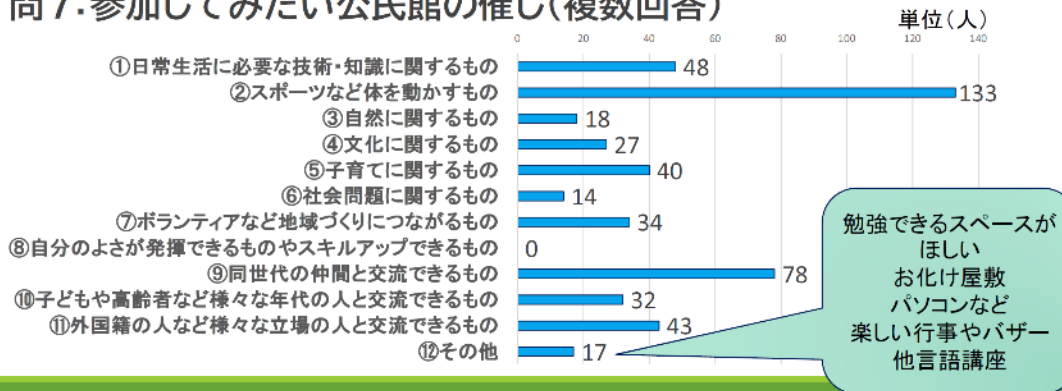
突出して多いのは、⑧利用する必要がなかった。
次に多いのが、②どのような催しがあるかわからないだったので、公民館での催しの情報、しかも魅力的な情報が届けば、公民館利用につながるのではないかと考えられる。

問6-1:利用したことがない理由(複数回答)



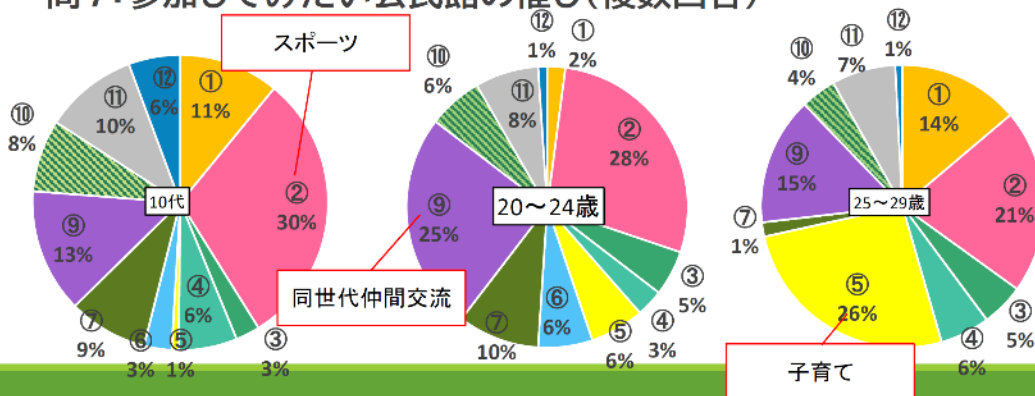
参加してみたい公民館の催しについて、一番多いのが②スポーツなど体を動かすもので、次いで⑨同世代の仲間と交流できるものだった。
⑫のその他については、特になし、つまり参加してみたい内容は思いつかなかったというのも含まれている。

問7:参加してみたい公民館の催し(複数回答)



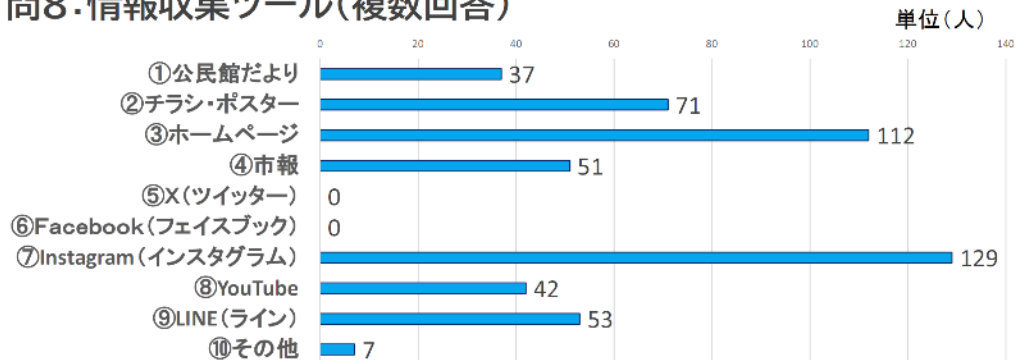
年代別で割合を出してみたところ、どの世代でも20%を超えているのは②スポーツなど体を動かすものだった。25～29歳は、⑤子育てに関するものの割合が26%と、他の世代に比べて高かった。

問7:参加してみたい公民館の催し(複数回答)



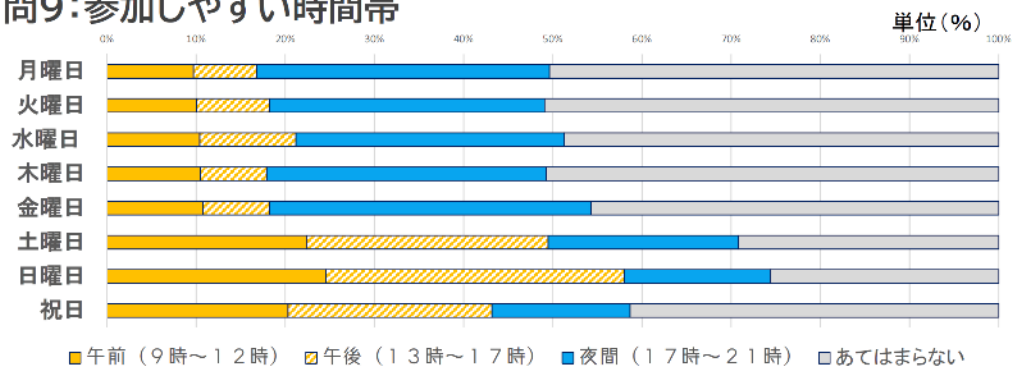
情報収集ツールについては、①公民館だよりや②チラシ・ポスター、③ホームページや④市報など、既存の方法を選択している人が多いが、SNSで一番多いのが⑦インスタグラムだった。

問8:情報収集ツール(複数回答)



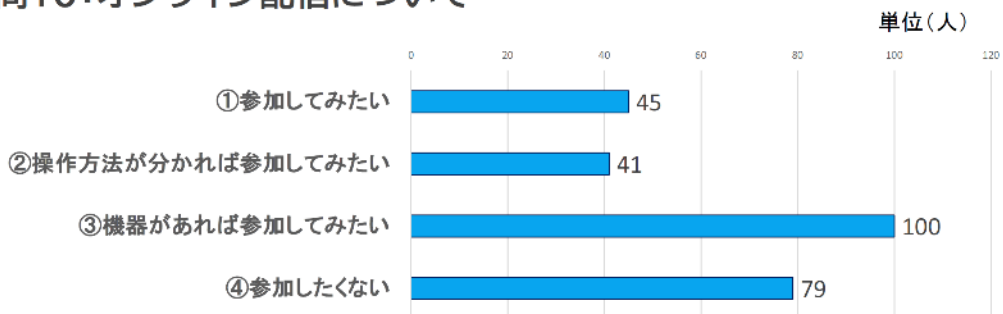
参加しやすい時間帯については、平日は夜間が多く、土日祝日は日中が多かった。

問9:参加しやすい時間帯



オンライン配信については、③機器があれば参加してみたいが一番多かった。

問10:オンライン配信について

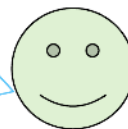


その他の意見・要望等については、「ありがとう」や「お世話になっています」「今後ともよろしくお願いします」など、うれしい意見もたくさんあった。

問11:その他 意見・要望等

- ・利用させてくれて、ありがとう
- ・教えてくれて、ありがとう
- ・いろいろなイベントがあり、とてもいい
- ・テスト期間お世話になっています
- ・高校生のころ、帰宅する前に公民館で受験勉強をしました。
電気スタンドを貸してもらったり、大変お世話になりました。
- ・今後ともよろしくお願いします

うれしい意見



要望としては、講座内容に関するものとして、下記のようなものがあった。

問11:その他 意見・要望等

【講座内容に関するもの】

- ・子育て関連の催し
- ・もっと興味のもてるもの
- ・同世代が誘い合っていけるようなイベント
- ・ボランティア活動、地域の子どもや高齢者と共に活動できるもの
- ・eスポーツ

施設・設備面では、フリーWi-Fiや食堂などの要望があった。中には、「古い」「時間が止まっているようだ」などの意見もあった。

問11:その他 意見・要望等

【施設・設備に関するもの】

- ・オムツ交換代、授乳室
- ・フリーWi-Fi
- ・古い
- ・芳香剤、スリッパ
- ・エアコン
- ・食堂

【時間に関するもの】

- ・図書室が、平日夜まで空いていたらうれしい
- ・なぜ、月曜日が休みなのか

広報に関するものでは、下記のようなものがあった。

問11:その他 意見・要望等

【広報に関するもの】

- ・ホームページやSNS
- ・チラシが多すぎる
- ・引っ越してきて情報が入手しにくい

意見・要望で一番多かったのは、学習スペースに関することだった。
時期によってはもっと増やしてほしいとの要望があった。

問11:その他 意見・要望等

【学習スペースに関するもの】

- ・増やしてほしい
- ・中高生は学校帰りや休日に利用できる
- ・静かなスペースがほしい
- ・友だちと勉強会のようなものがしたい
- ・部屋でできたら集中しやすい
- ・広くしてほしい(長期休業中に利用できない時がある)

大分市地区公民館の事例

「つどう」ための仕掛けづくり～気軽に利用できるように～

青年層で構成されるサークルなどの発表の場の提供

◆坂ノ市公民館

- 【団体】①日本文理大学写真部～公民館ロビーに作品を展示(定期的に入れ替え予定)
②よさこいサークル「杏葉(きょうば)」大学生・社会人によるサークル
～11月末に集会室にてよさこい演舞鑑賞会を開催



青年層が参加しやすい回数や時間帯での実施

◆植田公民館：男☆チャレンジ講座

【回数・時間帯】前期 3 回、後期 2 回

19:00～21:00(平日)

(回数を少なくし、夜間に実施することで参加しやすくした)

【内容】前期・・・ストレッチヨガ、後期・・・コーヒー講座

(公民館独自で行ったアンケート調査により内容を決定)



子育ての困りを解消する講座

◆坂ノ市公民館：ふれあい運動あそび

【対象】心身の発達に不安を感じ、心配事がある小学校 1～3 年生(保護者同伴)

【内容】サッカー、なわとび、マット運動などを通して、体を動かすことの楽しさや
友だちとの関わり方を学ぶ

【講師】作業療法士や理学療法士の国家資格をもっている人
地域の高校生ボランティアの
「未来応援コミュニティ b-room」が支援に入っている



生涯学習情報サイト「まなびのガイド」
「ふれあい運動あそび」のページ



地域のさまざまな立場や世代の人と青年層が「つながる」場の提供

～青年層をまきこんだ地域づくり～

地域のさまざまな立場や世代の人の「まなぶ」を支援する立場での参加

◆佐賀関公民館:スマホ入門教室

第1回



第2回



第3回



生涯学習情報サイト「まなびのガイド」
「スマホ入門教室」のページ

【対象】成人一般

【内容】スマートフォンの基本的な操作から、安全な活用までを自分のスマートフォンを使用して学ぶ

【講師】日本文理大学 学生ボランティアグループ「よろずやながはる」



◆南大分公民館:わくわく子どもフェスタ

【対象】子ども

【内容】読書に関する劇や歌遊びを楽しむ講座

【講師】大分大学児童文化研究部

※大学生が練習のために公民館を利用、公民館職員が声をかけ講師になってもらった



生涯学習情報サイト「まなびのガイド」
「わくわく子どもフェスタ」のページ



◆大分東部公民館：ソーリンくんスマホの学校（令和 6 年度講座）
※令和 5 年度は県公連モデル事業として実施

【対象】小学生、高齢者

【内容】情報モラルや情報リテラシー（情報を適切に使いこなす能力）に関するもの

【講座の支援】高校生ボランティア

※公民館がボランティア証明書を発行



イベント等への参加・参画を通じた世代間の交流

◆南大分公民館：「南大分地区中学生ボランティア隊 SOUTHBIRDS」

【内容】年度はじめに募集

研修および地域の要請に応じてボランティア活動をする

（みなみおおいた夏祭りにおける人権啓発活動

たこあげ大会受付補助、その他 地域行事におけるボランティア）



生涯学習情報サイト「まなびのガイド」
「中学生ボランティア研修」のページ



◆大在公民館：「おおざい WAKUWAKU ホリデー」



YouTube 動画

「2023 おおざい WAKUWAKU ホリデー」

【対象】親子

【実行委員会】地域の企業（ヒューマック大分）と日本文理大学情報メディア学科の教授
および学生で構成され、企画・準備・当日の運営を行う。

【令和 5 年度の内容】ドローン操作体験をし、それをもとに近未来のドローン・AI ロボットを駆
使した社会貢献イメージを、大学生を交えて意見交換する。



◆植田公民館：「わくわく科学フェスタ」

【対象】親子

【実行委員会】近隣の高等学校や大学の学生にも実行委員になってもらい、自分たちが受け
持つブースの内容を企画・運営してもらう。

◇高等学校（大分県立大分雄城台高等学校 科学部・大分工業高等学校）

◇大学（大分大学 理工学部）



生涯学習情報サイト「まなびのガイド」
「わくわく科学フェスタ 2023」のページ



令和 5 年度 大分市社会教育委員

| No | 氏 名 | 団 体 |
|----|--------|------------------|
| 1 | 山崎 清男 | 大分大学 |
| 2 | 靄 浩二 | 大分工業高等専門学校 |
| 3 | 園田 貴史 | 大分市小学校長会 |
| 4 | 高藤 憲作 | 大分市中学校長会 |
| 5 | 平本 泉 | 大分市PTA連合会 |
| 6 | 高山 早苗 | 大分市公立幼稚園 PTA 連合会 |
| 7 | 中村 慎一 | 大分市子ども会育成連絡協議会 |
| 8 | 石田 泰秀 | 大分市青少年健全育成連絡協議会 |
| 9 | 林 美紀 | 大分市青少年補導員連絡協議会 |
| 10 | 牧 久美 | 大分市地域婦人団体連合会 |
| 11 | 白石 正義 | ボーイスカウト大分県連盟 |
| 12 | 工藤 喜賀 | ガールスカウト大分県連盟 |
| 13 | 寺脇 将志 | 大分青年会議所 |
| 14 | 稲生 まゆみ | 大分市公民館連絡協議会 |
| 15 | 大西 敦子 | 西部地区 |
| 16 | 桑野 美保 | 南大分地区 |
| 17 | 林 千寿 | 明治明野地区 |
| 18 | 杉原 正一 | 大南地区 |
| 19 | 山田 智子 | 坂ノ市地区 |
| 20 | 久枝 恵美 | 佐賀関地区 |

